

11月22日 王であるキリスト

万物の王

ヨハネによる福音書 18章 33～37節

³³そこで、ピラトはもう一度官邸に入り、イエスを呼び出して、「お前がユダヤ人の王なのか」と言った。³⁴イエスはお答えになった。「あなたは自分の考えで、そう言うのですか。それとも、ほかの者がわたしについて、あなたにそう言ったのですか。」³⁵ピラトは言い返した。「わたしはユダヤ人なのか。お前の同胞や祭司長たちが、お前をわたしに引き渡したのだ。いったい何をしたのか。」³⁶イエスはお答えになった。「わたしの国は、この世には属していない。もし、わたしの国がこの世に属していれば、わたしがユダヤ人に引き渡されないように、部下が戦ったことだろう。しかし、実際、わたしの国はこの世には属していない。」³⁷そこでピラトが、「それでは、やはり王なのか」と言うと、イエスはお答えになった。「わたしが王だとは、あなたが言っていることです。わたしは真理について証しをするために生まれ、そのためにこの世に来た。真理に属する人は皆、わたしの声を聞く。」

他の朗読：ダニエル 7:13, 14 詩編 93:1, 2, 5 黙示録 1:5～8

Lectio …読む

ヨハネ福音書における受難物語からのこれらの箇所は、イエスとパレスチナのローマ総督ピラトとの出会いを述べています。ユダヤ人の権威者たちは遂にイエスを告発し死刑を要求するに足るものを見つけました。

しかしユダヤ人の指導者たちにはひとつの問題がありました。そう、彼らは既にイエスを殺すことを決定していました。しかしローマ人はこれを合法的に行う権限を彼らから取り上げていました。後で争いがないように、彼らにはイエスの死が公のものである必要があったのです。彼らはイエスとイエスの教えに決着をつけたいと望んでいました。

それでどうにかしてローマ人にイエスを処刑させなければなりません。ローマのはりつけは緩慢で、非常に痛みを伴う死でした。また皆が見えるように十字架の上に裸で吊るされる屈辱的なものでした。

しかしピラトにはイエスを処刑するのに、宗教的な理由ではなく政治的な理由が必要でした。それでピラトはイエスに、政治的な扇動者なのか、と尋問します。イエスは、自分は王であると言ったのでしょうか。イエスはピラト自身の質問で応えます。あなたは自分の考えでこの質問をしたのか、それともうわさで質問したのか、と。

イエスを引き渡したのがユダヤ人の指導者たちであったので、イエスの言ったことでピラトはいらだちます。イエスはピラトの二番目の質問を無視します。イエスはもっとはっきりさせるために、王国についてのピラトの質問に戻ります。

イエスは彼の王国は自分が宣べ伝え、教えなければならない真理に関わっている、と説明します。朗読はここで終わります。しかし会話は続き、ピラトはイエスの言う「真理」とは何かを尋ねます。ピラトは決してそれを見つけることできません。何故ならば、彼はそれを聞きたいとは思わず、ユダヤ人の権威者たちによって仕掛けられた罠に落ちていたからです。

Meditatio …黙想する

ここでイエスは、どのような種類の王国を暗示しているのでしょうか。どんな王国でイエスは王なのでしょう。これはあなた個人にとって、何を意味するのでしょうか。

イエスがこの世に来て明らかにしようとした真理とは何でしょうか。

あなたはどのようにイエスに耳を傾けますか。毎日の生活の中で、あなたはイエスに聞くことをどれほど優先させていますか。

Oratio …祈る

詩編 93 編は神は全ての威厳と栄光の中で王であると描いています。典礼はこの詩編をイエスに当てはめています。神の王としての姿についてのリストを作ってみましょう。これらの箇所を読むとき、新鮮な畏れと驚きを与えられるように、聖霊を呼びましょう。これらの箇所をあなたの驚くべき王を称えるために用いましょう。

Contemplatio …観想する

王であるキリストの理解をもっと深めるために、もう一つのダニエル書の見方があります。私たちはダニエル 7 章 13、14 節がイエスについて語っていると考えることができます。それはイエスの権威と王国は永遠に続くという大きな確信を私たちに与えてくれます。

黙示録 1 章 5～8 節において、福音書記者ヨハネは、王であるイエスについての詳細を私たちに伝えてくれています。この年間朗読の書を終えるに当たり、ヨハネの賛美の祈りを唱え響かせる以上にふさわしいことはないでしょう。

「(イエス・キリストに) 栄光と力が世々限りなくありますように、アーメン」